

関東森林学会大会への参加

関東森林管理局 森林技術・支援センター

○日 程 9:30~ 大会受付
9:30~9:55 幹事会
10:00~16:45 研究発表(+昼休み)
12:30~13:10 総会
13:15~14:00 公開特別講演
17:30~19:00 懇親会(文化センターグランド「モンマルシエ」)

○公開特別講演 「筑波山のブナ林の現状と保全について」
小幡和男氏(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

○発表会場と発表部門

発表会場	発表部門
A会場 (本館1F集会室1号)	午前:育種 /午後:育種・生態
B会場 (本館1F集会室2号)	午前:経営 /午後:経営・林産
C会場 (本館1F集会室3号)	午前:特用林産 /午後:特用林産・立地
D会場 (本館1F集会室4号)	午前:造林 /午後:造林
E会場 (分館1F集会室8号)	午前:防災 /午後:防災
F会場 (分館1F集会室9号)	午前:動物 /午後:動物・風致
G会場 (分館2集会室10-1)	午前:利用・生理 /午後:林政

※各発表部門の時間割は、発表プログラムでご確認ください。
※昼食は施設内外のレストランがご利用いただけます。



森林技術専門官



D会場：造林

【日時】平成27年10月19日(月) 【場所】茨城県立県民文化センター 【参加者数】約160名

【題目】

「スギ人工林適地に植栽した溪畔種シオジの成長調査」

【要旨】

シオジは溪流沿いに群落を形成する落葉性の高木である。主に家具材としての利用価値が高い。近年、その資源量が減少しており、川下からの需要に応える必要がある。

福島県棚倉町の国有林において、スギ伐採後に植栽された林齢17年のシオジ林で成長調査を行った。この植栽地は最も近い河川から途中に林道と土場を挟んで約100m離れた、南東向き斜面で、BD型土壌のスギ人工林適地である(地位1)。植栽木の密度は2266本/ha、平均苗高は1.0mであった。斜面上部と下部に設けたプロットでシオジを比較すると、それぞれ密度は548本/ha、904本/haであった。平均直径は8.4cm、9.0cmで有意差は見られず、平均樹高は10.1m、9.2mで有意差が見られた。二又や幹曲がりなど樹形に問題ある割合は59%、40%であった。

植栽地における17年生のスギの収穫予想は平均胸高直径13.0cm・平均樹高10.6mである。シオジは斜面上部と下部のプロットともスギの収穫予想に近い成長が伺えるが、樹形管理に課題があると思われる。

【まとめ考察等】

スギ人工林適地に植栽した溪畔種シオジは、本調査地においては、

- ①斜面下部から中腹まで成長する。
- ②スギ適地でのスギの予想樹高に近い。
- ③斜面の上下に設定したプロットでは、

(1) 平均樹高は上プロットが高く、

(2) 平均枝下高は下プロットが高い。という結果でした。

これらのことから、シオジを育成するとき、溪畔域外での造林も選択肢の1つという可能性が示唆されました。

また、立木本数は下プロットで多く残存していましたが、密度差により下プロットの枝下高が高くなったのではないかと考えられます。

このことから立木密度を高く保つことで枝下高が上がる可能性が示唆されました。